

祖父の死，その時父は…

八百津町立八百津中学校 3年 市岡 祐希

私の祖父が寝たきりになって入院したのは，今から2年前です。脳梗塞をわずらい，手足が不自由になった祖父は，入院してもあまりよくはなりません。少しずつ弱っていった祖父を一番よく見ていたのが，父です。父は用事のない時はほとんど病院に通っていました。初めのうちは，話が出来たので，私も時々お見舞いに行きました。けれど，祖父があまり反応しなくなってからは，病院に行くことも減りました。

父は，祖父の所へ行くと，まず，ひたいに手をあてて熱がないか確認します。そして，手足をさわり，こわばりをほぐしたりしました。祖父は，自由に動く事が出来なかったため，毎日お風呂に入る事が出来ませんでした。父は，大きめのウェットタオルで，握ったままの手の指の間を，ふいてあげていました。そして，いつもと変わりがないと確認できると，祖父に話しかけていました。その話は，ほとんどが山の話でした。祖父は，ずっと山仕事をしてきた人でした。きっと，祖父が一番よく分かる話をしていたのだと思います。父の話を聞いて，祖父は時々，「ウン」「ウン」と，うなづく程度でした。全く反応がない日も多くありました。それでも父は，祖父の所へ行って，色々な話をしてあげていました。そんな父の姿を見ていて，私は，父の優しさを感じました。普段父は，私に色々注意するし，すごく心配性で，色々確認をします。私は，そんな父を，ちょっとうっとおしいなと思っていましたが，祖父に対する姿を見た時，父の本当の優しさなんだなぁと思いました。

祖父は，色々な治療をしましたが，今年の夏，病院で静かに亡くなりました。父はとても冷静でした。そして，2年間帰る事の出来なかった家へ，祖父を連れて帰ると言いました。病院から祖父の家までは遠く，1時間半ほどかかりました。やっと到着すると，父は祖父をいつも寝ていた寝室へ運びました。そして，「帰ってきたぞ」と一言声をかけました。その時すでに多くの親戚が集まっっていて，座敷の方へ寝せたらどうかと意見がありましたが，父は，「一晩，寝なれた床で寝せてやりたい」と言いました。祖父の一番喜ぶことをいつも考えた，父の一言一言にも，優しさを感じました。

葬儀が終わり，祖父のお骨をひろう時，父は，「全骨いただいでいきます」と言いました。一番大きな骨つぼに，祖父の骨を全部ひろいました。お墓に入りきらないお骨はどうするかと，みんなが父に聞きました。すると父は，「山の一番高い所にうめてやりたい」と言いました。祖母も，「それがいいね」と一言，言いました。祖父の仕事場であった，山が，一番よかったのだと思います。4

9日法要の日には、父が話していた様に、祖父の骨を、みんなで納骨する事が出来ました。

今回、私は家族の死を、初めて経験しました。それは、あまりにも突然で、悲しくて、とても大変でした。そんな中、祖父を思う父の姿は、本当に尊敬できるものでした。最近、父に反抗する事も多くて、父の事をいやがったりしてばかりしていましたが、今回の優しい父の姿は、私にとって、忘れる事の出来ない姿となりました。

家族を思う気持ちは、人それぞれで比べる事は出来ないと思うけれど、私も父の様に、家族を思いやる事の出来る人になりたいと思います。